

テントハウス業界とともに「新しい」の追求を続ける。

# SKYBLUE

株式会社 スカイブルー



本社外観

## 企業概要

代表取締役

片 泰人氏



所在地 (本社/工場) 三重県いなべ市大安町石樽東2961-35  
TEL:0594-88-0222 FAX:0594-88-0223

設立 1989年(平成元年)10月

資本金 2,000万円

従業員数 28人(2022年8月現在)

事業内容 テントハウス製造販売及び各種レンタル

URL <https://1bankun.jp>

常に挑戦することを忘れず、不可能を可能に。  
顧客の希望に沿った製品をゼロから創る。

## 幅広いニーズに応える オーダーメイドのテント

株式会社スカイブルーはいなべ市に本社を構え、名古屋市と福島県に営業所を置くテントハウス製造・レンタル会社である。「お客様が望む製品を素早く、低コストで提供したい」という思いから、設計から製造まで一貫したシステムを駆使し幅広いニーズに 대응している。あらゆるサイズの大型テントに対応し、オーダーメイドテントのレンタルを行う会社で、各方面からの引き合いが多い。常に「新しい製品」「独自の製品」への探究心を欠かすことなく、ノウハウのない新規事業にも率先して取り組んでいる。

## 新たな可能性を求め、 テント事業へ

創業は1966年。社長の片泰人氏の父・現会長の達男氏が当時自動車部品や建築機械部



工場内の様子

品などのパイプ曲げ加工業を営んでいたが、ある日、取引先と足を運んだ大阪万博で「このパビリオンのような建物が作れるか」と尋ねられ、「できる」と即答したことがきっかけで、片製作所として小型テントの製作事業を愛知県内でスタート。持ち前のチャレンジ精神で開発した大型野外テント「あおぞら」は確かな品質と低コスト性が評判となり、89年にはその商品名にちなみ「株式会社スカイブルー」に社名変更した。2010年に



プラント用テント



東員資材センター

泰人氏が代表取締役役に就任し、縁があった孤野町に資材センターを移転。その後、いなべ工場を設立し、12年に本社をいなべ工場に集約させた。

11年の東日本大震災の時には、ゼネコンからの救援要請を受けて片会長が発災直後の現場に向かい、がれきや産廃物置き場、緊急避難場所等に使うテントをボランティアで設置し、除染作業も手伝った。その時、テントの必要性に気付いた片会長は今後の需要を見据え、現地営業所（東北営業所）を立ち上げた。

テント倉庫にすることで短納期の良さと防犯面の強化の両立を実現した。さらに、震災時の落下やケガのリスクが少ない、張る天井、「ファイバーシート天井システム」を採用するなど、テントの施工技術を生かした新たな商品展開を次々に行っている。「新しい製品、新しい技術への挑戦を忘れなかつたからこそ、今の成長を強く感じている。だから、社員にもチャレンジ精神を持って何事にも臆せず取り組んでほしい」。今後は資格取得による報奨金

### テントハウスならではのメリット

大型テントは主に工事現場で利用されることが多く、焼却炉改修工事、土壌改良工事、トンネル工事、高速道路工事など、その現場は多岐にわたる。「テント設置によって天候に左右されることなく作業を効率よく進めることができるため、納期の短縮や経費削減に大きく貢献できる」と片社長。他方で、作業員の休憩所や工場内のクリーンルームなどの小型テントの販売施工も手掛ける。

テントは一般的な建築物に比べて圧倒的に施工が早く軽量である上、設置後の移動が容易であることが強みだ。さらに、鉄骨に施した塗装加工により骨組みが錆びる心配もなく、膜材料のメンテナンスのみでほぼ半永久的に利用できる。低コストながら、一般建築と同様の強度を保持している。片社長は「移設や増設、解体も比較的容易で将来的な運用もしやすい」とテントハウスの利点を語る。

同社ではオーダーテントのレンタルにも力を入れている。大型テントのレンタルは在庫を置くことから、業界でも手掛ける会社は少ない。レンタルのテントは必要な時期を過ぎれば解体できるため顧客にとってコストメリットも大きい。

### 難問に挑むチャレンジ精神

顧客の希望を第一に考える同社には、ときにチャレンジングな要望が舞い込む。高速道路の工事現場で「地上100mの場所に固定式のテント屋根を設置してほしい」と依頼を受けた。通常、地上にテントを設置する際には風速28m/s、36mの風に耐えられるよう資材を加重する必要があるが、設置場所の都合により重量は2tまでという条件が課せられた。

これまでにない難問に頭を悩ます片社長に「ナガシマスパーランドのジェットコースターのレールを見てこい」と片会長が助言した。解決の手がかりをつかみに遊園地へ向かい、コースターを見上



スライド式テント

「自分が代表になった、その意味を考えなければならぬ」と語る片社長。新生スカイブルーはまだスタートラインに立つたばかり。これから皆で力を合わせ、大きな翼で青空に羽ばたいていく、ことだろう。

編 員 会 員 事 業 部 鈴 木 理 可

### 新生スカイブルー

制度の充実や、社員の士気が高まるようなイベントを取り入れていきたいという。三つ目が「お客さまの希望を第一」の精神だ。「希望に近いもの」ではなく「希望通りのもの」を提案するため、豊富な資材と自社生産体制を整えている。設計から製造、設置、解体処分まで一貫通で行う同社だからこそ実現可能であるといえる。

片社長の根底には父親に対する尊敬の念が常にある。「父は人を喜ばせることが好きで、いろいろなイベントを開いたり、自分で建てた家に人をよく招いたりしていた。そして、一人でここまで会社を大きくし、35歳の若かった自分にすべてを任せてくれた」。

20代の頃は違う夢を追っていた片社長だが、大切な人との出会いや印象に残る出来事がターニングポイントとなり、30代で同社に入社した。当初はベテラン職人たちの中で二代目の自分がある意味を感じられず立ち止まってしまう経験があるという。「社長

就任後の数年間は会社の体制を整えるため、好きなお酒も飲めないほど苦難の連続だった。今は社内体制が整い人も集まり、ようやく前を向いて進めるようになった」と話す。今後は、先を見据え新しいことに挑戦する意欲を大切にしながら、会社の基盤をより強固にすることに注力していく。そのために、社員教育に力を入れていくほか、退職後の高齢者の再雇用、女性社員の活躍推進、時短勤務の導入、BCP（事業継続計画）の策定、環境に配慮した非ガソリン車への社用車入れ替えなど、誰もが働きやすい職場づくりを目指している。

### 支店より一言

毎回、新たな挑戦を熱く語られるのが片社長の印象です。オフィスを訪れると、経営理念がしっかりと体現された成長企業の雰囲気を感じます。建設現場に欠かせないテントですが、同社では、安全で天候に左右されないなどの基本機能に加え、用途に応じたテントをゼロから作り上げる開発力など、先駆的な取り組みで建設業界の発展に貢献しています。地域の元気企業から、更なる大きな青空へと飛躍されることを期待しています。



百五銀行 いなべ支店長 諸岡 章弘